日本教育工学会研究会 午後の部① C7
2024年10月12日（土）12:55-14:40

教員のフィードバック・リテラシーに関する文献レビュー

A Short Literature Review of Teacher Feedback Literacy

瀬崎 颯斗＊[1]　渡邊 智也＊[2]　岩田 貴帆＊[3]　小野塚 若菜＊[2]

東京大学大学院新領域創成科学研究科＊[1]

ベネッセ教育総合研究所＊[2]

関西学院大学高等教育推進センター＊[3]

目次

1. はじめに

1.1. フィードバックに関する研究背景

1.2. フィードバック・リテラシーへの着目

2. 文献レビューの目的と方法

3. 教員のフィードバック・リテラシーに関する研究動向

3.1. 概念枠組みの提案

3.2. 教員調査に基づくカテゴリー生成

3.3. 質問紙調査・尺度開発を通じた実証研究

4. まとめと今後の課題

1.　はじめに

1.1. フィードバックに関する研究背景

- **学習評価としてのフィードバックの重要性**
  - フィードバック（FB）は，学習者が自身の取り組みを改善するきっかけを提供し，学習の質を向上させるための重要な手段
    - FBは高い教育効果を有する指導方略（e.g., Wisniewski et al. 2020）
    - 授業の質を構成する重要な要素（立命館大学教育・学修支援センター 2021）

- **フィードバックを実践する上での課題**（e.g., 立命館大学教学部教務課2021）
  - 学習者視点：授業で行われる適切なFBが十分でないことへの不満
  - 教員視点：授業実施において受講生へのFBは特に負担感を感じる

1.2. フィードバック・リテラシーへの着目

- **フィードバック・リテラシーとは**
  - 学習者と教員の責任共有の必要性（Nash and Winstone 2017）から学習者がFBプロセスに積極的に関与し，その効果を高めるための概念としてフィードバック・リテラシーが注目される
  - 学習者のFBリテラシーと教員のFBリテラシーに大別される（Nieminen and Carless 2023）

学習者のFBリテラシーの定義（Carless and Boud 2018）

情報を理解し，自身の取り組みや学習方略を向上させるために
情報を利用する際に必要な理解，能力，気質

教員のFBリテラシーの定義（Carless and Winstone 2023 ※初出は2020）

学習者がフィードバックを取り入れること（uptake）を可能にし，
学習者のフィードバック・リテラシーの発達を促すように，
フィードバック・プロセスをデザインするための知識，専門性，気質

学習中心パラダイムに位置づく

※ いずれも日本語訳は瀬崎ほか（2023）による

1.2. フィードバック・リテラシーに関する先行研究

- **国内研究では学習者のFBリテラシーが注目を集める**
  - 医学教育の文脈での着目（朝比奈 2021, 木村・錦織 2023）
  - 学習者のFBリテラシーに関する研究動向レビュー（瀬崎ほか 2023）

- **学習者のFBリテラシーに関する実践・実証研究の増加**
  - ライティング授業でのピアレスポンス実践を分析した研究（阿部ほか 2023; 杉浦ほか 2024a）
  - FBに関する講義・ロールプレイや典型事例を活用した実践研究（岩田ほか 2024）
  - 学習者のFBリテラシー行動の測定尺度開発（渡邊ほか 2024）

↕

- **近年海外では教員のFBリテラシーの研究も活発化**
  - 国際学術誌『Assessment & Evaluation in Higher Education』では”Teacher Feedback Literacy”をテーマとする特集号が組まれる（e.g., Pitt and Winstone 2023）

2.　文献レビューの目的と方法

2. 文献レビューの目的と方法

教員のフィードバック・リテラシー研究に関する現状

- 日本国内におけるレビューでは，学習者のFBリテラシーの概念と研究動向が明らかにされている（瀬崎ほか 2023）
- 教員のFBリテラシーは，主要な研究の定義等が取り上げられるが，詳細な検討には至っていない（瀬崎ほか 2023; 沙ほか 2024）

↓

「教員のフィードバック・リテラシーとはどのような概念か」をリサーチ・クエスチョンとするナラティブ・レビュー

- 主要な海外研究のレビューを通じて，研究動向を明らかにする
  - Teacher Feedback Literacyがキーワードの論文を検索・概観し，本概念の発展・応用・具体化に貢献がみられる研究を中心にレビュー
- 国内の実践研究を対応付けることで，本概念の内実を示す

3.　教員のフィードバック・リテラシーに関する研究動向

3. 当該分野の研究動向

リサーチ・クエスチョン

教員のフィードバック・リテラシーとはどのような概念か

研究動向を以下のように整理し，本概念の詳細を検討

3.1. 理論的考察により概念枠組みを提案した研究

3.2. 教員調査に基づき概念カテゴリーを生成した研究

3.3. 質問紙調査・尺度開発を通じた実証的な研究

3.1. 理論的考察により概念枠組みを提案した研究

- **Carless and Winstone（2023）の学術的貢献**※初出2020
  - 教員のFBリテラシーを新たに概念化した上で，
    教員と学習者のFBリテラシーの相互作用モデルを提唱
  - “Teacher Feedback Literacy”研究で，被引用数が479件で最多
    （Google Scholar 2024/10/11 時点）

- **教員のFBリテラシーの定義**（日本語訳は瀬崎ほか 2023による）

学習者がフィードバックを取り入れること（uptake）を可能にし，
学習者のフィードバック・リテラシーの発達を促すように，
フィードバック・プロセスをデザインするための知識，専門性，気質

➡ 単に教員が「学習者にFBを効果的に伝える能力」のみに留まらない

3.1. Carless and Winstone（2023）の概念枠組み提案

教員のFBリテラシーの構成要素

各側面に対応する3要素を新たに提唱

1. デザインの測面（Design dimension）
   →取り入れるためのデザイン（Designing for uptake）
2. 関係性の側面（Relational dimension）
   →関係性への気配り（Relational sensitivities）
3. 現実的な側面（Pragmatic dimension）
   →実際の管理（Managing practicalities）

学習者のFBリテラシーの構成要素

Carless and Boud（2018）で提唱された概念の4要素を保ちながら語句修正

- Appreciate feedback（旧：Appreciating feedback）
- Refine evaluative judgments（旧：Making judgments）
- Take action in response to feedback（旧：Taking action）
- Work with emotions productively（旧：Managing affect）

3.1. デザインの側面：Carless and Winstone（2023）

取り入れるためのデザイン（Designing for uptake）

教員が効果的なフィードバック・プロセスを促進する方法で
アセスメント環境をデザインすること

Carless and Winstone（2023）による具体的な説明

① カリキュラムとアセスメントの流れを設計することで，学習者がフィードバックを生成することと取り入れることを促進する

② ピア評価や典型事例の評価などの活動を通して，学習者が自分の取り組みや他者の取り組みについて判断を下せるようにサポートする

③ タイムリーなガイダンスや本質的なフィードバックを用いることで，課題で要求されることを明確にしたり，課題後のフィードバックが遅すぎて学習者が取り入れられないという問題を避けたりする

④ フィードバックに関与し，フィードバックを取り入れることを促進するために，必要に応じてテクノロジーを導入する

3.1. デザインの側面からみた国内の実践例

- **ピア評価と典型事例を組み合わせたアセスメントの設計**
  - **ピア評価**：協議ワークを取り入れたピアレビュー（岩田 2020）
    - ピアからのFBを無批判に受容するのではなく，より適切に自己評価するための参考情報とすることを学生に促す
  - **典型事例**を活用した評価練習（岩田・田口 2023）
    - ルーブリックの全ての水準に典型的な事例を対象に学生が評価する活動を事前に実施し評価基準の理解を促す
  - これら活動による学生のパフォーマンスへの効果（岩田 2023）
    - これら活動で適切に自己評価できるようになった学生は，改善の余地のあるレポートをうまく修正することができ，教員評価得点が有意に向上した

3.1. 関係性の側面：Carless and Winstone（2023）

関係性への気配り（Relational sensitivities）

教員が学習者とのフィードバックにおけるコミュニケーションや関係性の側面に敏感に注意を払うこと

Carless and Winstone（2023）による具体的な説明

① フィードバックの共有方法において，支援の姿勢，親しみやすさ，気配りを示す

② フィードバック・プロセスを，教員と学習者のパートナーシップとして捉える

③ フィードバック・コミュニケーションにおける関係性の側面を強化するためにテクノロジーを導入する

3.1. 関係性の側面からみた国内の実践例

- **学習者同士の関係性**（藤原ほか 2007）
  - ピアレビュー活動で評価者・被評価者が，相互の組み合わせになると相手への評価が甘くなってしまう「お互い様効果」の発見
  - この効果が生じないように，ピアレビューの評価者を自動で割り付けるシステムを開発

- **教員と学習者の関係性**（小園ほか 2014）
  - 大学の看護教育で臨床場面を模した課題に学生が取り組んだ後に，指導者がFBする際の配慮を質問紙調査から整理
  - 生成されたカテゴリーの例:
    - 「ポジティブ・ネガティブ・ポジティブ（PNP）でのフィードバック」
    - 「笑顔でのフィードバックと学生が萎縮しない言葉の選択」

3.1. 現実的な側面：Carless and Winstone（2023）

実際の管理（Managing practicalities）

教員がフィードバックの実際をかじ取りする中で現実的な落としどころを管理すること

Carless and Winstone（2023）による具体的な説明

① フィードバックの異なる機能間の緊張を調整する

② フィードバック・プロセスにおける専門領域に関わる要素を管理する

③ 適時性，効率性，可搬性のためにテクノロジーを導入する

④ フィードバックに割かれる教員の仕事量と，学習者にとって有益なものとのバランスをとる

3.1. 現実的な側面からみた国内の実践例

- **パフォーマンス課題における教材の工夫**（長沼ほか 2019）
  - 学習者のコンピテンシーの育成を目指すパフォーマンス課題は教員のもつ専門的な鑑識眼に基づいた採点が一般的
  - 評価の「妥当性」,「信頼性」,「実行可能性」の高さが必要不可欠

⬇

  - 学習者自身が採点する際に客観的に判断可能な要素を，パフォーマンス課題・ルーブリックの中に組み込む工夫
  - 学生の採点による自己評価・相互評価でも，妥当性・信頼性を確保し，パフォーマンス評価の実行可能性を高められる可能性

受講者数の多い授業など，教員が個々の学習者を評価・FBすることが時間的に困難な場合でも，有益なFBプロセスを確保しようとする実践例

3.1. 小括: Carless and Winstone（2023）の概念提案

- **Carless and Winstone（2023）**
  - 教員のFBリテラシーの概念を新たに提唱した理論的論文

- **教員のFBリテラシーを構成する3側面**
  1. デザインの側面（Design dimension）
  2. 関係性の側面（Relational dimension）
  3. 現実的な側面（Pragmatic dimension）

- **FBにおけるテクノロジーの活用に関する言及**
  - テクノロジーの活用は，現代のFB実践における重要な要素
  - 上記3側面における詳細説明でも，その重要性がうたわれる

3. 当該分野の研究動向

3.1. 理論的考察により概念枠組みを提案した研究

3.2. 教員調査に基づき概念カテゴリーを生成した研究

3.3. 質問紙調査・尺度開発を通じた実証的な研究

3.2. 教員調査に基づく概念カテゴリーの生成

- **Boud and Dawson（2023）の概要**
  - Carless and Winstone（2023）は，実証的なデータに基づかない概念提案に留まっているという限界性を指摘
  - 上記の概念研究を補完する実証的な基盤の提供を目的として，FBに関する教員調査から，本概念のカテゴリー生成を試みる

- **データ：オーストラリアの大学教員への質的調査**
  - オーストラリアにある5つの大学の教員62名が対象のデータ
  - FBに関するインタビュー・フォーカスグループの録音記録
  - 帰納的な主題分析に基づいて，概念カテゴリーを生成

3.2. Boud and Dawson（2023）の概念カテゴリー生成

- **教員のフィードバック・リテラシーの能力枠組みを提案**
  - マクロ・メソ・ミクロの3レベルで，計19カテゴリーに分類される
  - 学習者側の枠組み（e.g., Molloy et al. 2020）の要素とほぼ重複がない

レベル	カテゴリー
マクロレベル（7カテゴリー） プログラムの設計と開発	① フィードバックを戦略的に計画する ② 利用可能なリソースを上手く活用する ③ 真正のフィードバックが豊富な環境づくりを行う ④ 学習者のフィードバック・リテラシーを向上させる ⑤ 同僚の成長を促し，同僚との連携を行う ⑥ （自己や他者に対する）フィードバックのプレッシャーを管理する ⑦ フィードバックのプロセスを改善する
メソレベル（9カテゴリー） コースモジュール・ユニットの設計と実施	⑧ フィードバックの限られた機会を最大限に活用する ⑨ フィードバックのタイミング・場所・順序を決める ⑩ フィードバックにおける対話と循環をデザインする ⑪ 課題とそれに伴うフィードバックのプロセスを構築し，実施する ⑫ フィードバック情報を評価基準や評価規準に関連付けて組み立てる ⑬ フィードバックと成績評定の間の緊張関係を管理する ⑭ フィードバックにテクノロジーによる補助を適切に活用する ⑮ 意図的に学習者の行動を促すように設計する ⑯ ピアや他者を巻き込んだフィードバックのプロセスを設計する
ミクロレベル（3カテゴリー） 個々の学習者の課題に関するフィードバックの実践	⑰ 学習者のニーズを特定し，それに応じる ⑱ 学習者に適切な情報を工夫して提供する ⑲ 様々な学習者のニーズを区別する

（出典：Boud and Dawson 2023, Table1を基に発表者作成）

3.2. 教員への質的調査から概念の内実を示す研究

- **Carless（2023）の特徴的なアプローチ**
  - 香港大学Teaching Feedback Awardの受賞教員6名に対する2回に渡る縦断的インタビュー
  - 先に挙げた教員のFBリテラシーに関する2つの主要枠組み（Carless and Winstone 2023; Boud and Dawson 2023）の要素をコードとして活用し，帰納的・演繹的なコーディング分析
  - フィードバック体制（Feedback Regimes）の観点から，社会的・学問的文脈の中で，優れた教員がどのようにFBリテラシーを発揮しているかの内実が示される

これら教員調査は，理論的知見に基づく概念枠組み提案に対して，国・地域・組織の文脈に応じて，本概念を補強・発展させる点で有用

3. 当該分野の研究動向

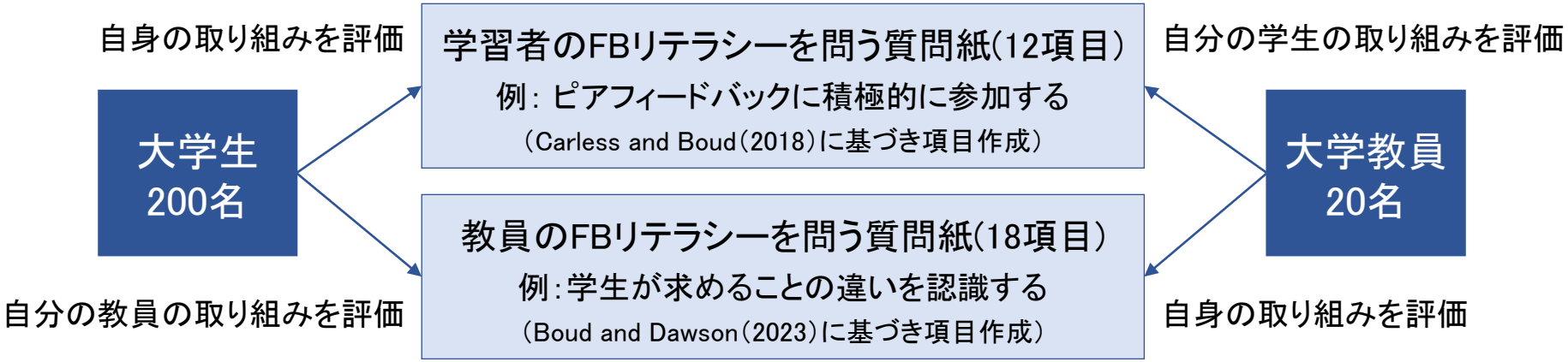
3.1. 理論的考察により概念枠組みを提案した研究

3.2. 教員調査に基づき概念カテゴリーを生成した研究

3.3. 質問紙調査・尺度開発を通じた実証的な研究

3.3. 教員と学習者のFBリテラシーに関する質問紙調査

- **Chen and Liu（2022）**
  - FBにおける責任共有（Shared Responsibility）の考えに基づき，教員と学習者のFBリテラシーの関係性，認識のギャップを検討
  - 中国の大学生200名と英語教育（EFL; English as a Foreign Language）担当の大学教員20名を同時に調査



学生と教員のFBリテラシーには中程度の正の相関→相互作用する可能性
教員自身よりも学生は教員のFBリテラシーを低く評価→認識ギャップの存在
理論的枠組に基づく尺度としての検証が進めば，有用な調査ツールになる

3.3. 専門分野固有の教員のFBリテラシーの尺度開発

- **Wang et al.（2023）**
  - 中国EFL教員のライティング・アセスメント・FBリテラシー尺度
  - 中国の英語教員517名を対象に演繹的・帰納的手法で項目作成
  - 因子分析を通じて4因子構造，計32項目からなる尺度を提案
    - ①アセスメント・FB能力，②アセスメント・FB実践，
      ③ライティング・アセスメント・FBの知識，④有用な技術の知識
- **Lee et al.（2023）**
  - L2ライティング指導に携わる教員のFBリテラシー尺度
  - 中国のL2ライティング教員223名への調査，3因子構造・ 計34項目
    - ①FBプロセスを進める自己のスキルに関する認識，
      ②FB自体に関する知識・理解の認識，③FBに対する信念や態度

課題：外的基準との関連性検討が不足，サンプルが中国の英語教員に限定
他文脈への一般化可能性を検討の上，各分野での尺度開発・利用が期待される

4.　まとめと今後の展望

4. まとめと今後の展望

発表概要

- 海外研究で注目される教員のFBリテラシーの研究動向を整理
  - Carless and Winstone（2023）による概念枠組みの提案を発端として，教員調査に基づくカテゴリー生成，尺度開発を通じた実証研究に発展

3.1.概念枠組み提案の観点からの考察と展望

- **FBリテラシーを枠組みとする国内のFB実践研究の発展**
  - FBリテラシーの文脈ではないものの，学習者の効果的なFB活用を促そうとする授業者の様々な工夫は，長年の研究蓄積が存在
  - 教員のFBリテラシーという概念は，それらの様々な工夫について，デザインの側面，関係性の側面，現実的な側面の3側面から新たな光を当てる枠組みといえる

4. まとめと今後の展望

3.2.教員調査によるカテゴリー生成の観点からの考察と展望

- **日本の文脈に応じた概念の再検討と精緻な分析が必要**
  - 海外と日本の教育機関における学習評価・フィードバックに関わる組織的背景や実践状況は，大きく異なることが予想される
    - 例：Carless（2023）の香港大学のように，優れたFB実践を行う教員に対する奨励賞が用意され，FB実践の強化を試みる組織体制も存在

海外研究が提案する概念枠組み・カテゴリーを援用するに留まらず
日本の各教育段階・機関の文脈に応じた研究と議論が求められる

4. まとめと今後の展望

3.3.尺度開発を通じた実証研究の観点からの考察と展望

- **教員のFBリテラシーに関する分野・文脈別での議論の進展**
  - 専門分野に依らない項目が設定された質問紙調査に加えて，特定の分野や文脈に特化した尺度開発研究が存在
  - 他にも分野・文脈別の事例研究が多数存在
    - 英語教員のライティング（Wu et al. 2023）
    - 創造芸術分野（Pitt and Carless 2022）
    - 国際的な高等教育スタッフ（Bale and Pazio Rossiter 2023）
    - 授業観察でのFBリテラシー（Heron et al. 2023）等

教員のFBリテラシー研究は，学習者のFBリテラシーと比べても

専門分野別や文化的・教育的文脈別での議論が進展する可能性

4. まとめと今後の展望

教員に対する能力開発の観点からの考察と展望

- **教員のFBリテラシーを高める取り組みの開発と実施**
  - 教員のFBリテラシーを高めるための実践研究は見受けられなかった
  - 学習者のFBリテラシーを高めるための実践は少なからず存在
    - Carless and Boud（2018）では，ピア評価・典型事例の評価が実践例として紹介される
    - Little et al.（2024）では，学習者のFBリテラシーを高める実践研究が体系的なレビューで整理されるに至っている
  - 教員のFBリテラシーをいかにして向上できるかを検討する必要性

教員研修・教職課程，大学教員に対するFD，大学院生らへのプレFD等

資質能力開発の取り組みで実践的に取り上げていくことが期待される

参考文献(1/5)

- 阿部真由美, 杉浦真由美, 石川奈保子 (2023) ライティング授業でのピアレスポンスにおける回答活動の効果. 日本教育工学会研究報告集, 2023(4): 108-114
- 朝比奈真由美 (2021) 10 フィードバックリテラシーを教育/学習する 10-1 学生に対するフィードバックリテラシー教育は生涯学習コンピテンシーを達成する有力な方略であるか? 医学教育, 52(2): 151–155
- BALE, R., and PAIZO ROSSITER, M. (2023) The role of cultural and linguistic factors in shaping feedback practices: The perspectives of international higher education teaching staff. Journal of Further and Higher Education, 47(6): 810–821
- BOUD, D., and DAWSON, P. (2023) What feedback literate teachers do: An empirically-derived competency framework. Assessment and Evaluation in Higher Education, 48(2): 158–171
- CARLESS, D. (2023) Teacher feedback literacy, feedback regimes and iterative change: Towards enhanced value in feedback processes. Higher Education Research and Development, 42(8): 1890-1904
- CARLESS, D. and BOUD, D. (2018) The development of student feedback literacy: Enabling uptake of feedback. Assessment and Evaluation in Higher Education, 43(8): 1315-1325

参考文献(2/5)

- CARLESS, D., and WINSTONE, N. (2023) Teacher feedback literacy and its interplay with student feedback literacy. Teaching in Higher Education, 28(1): 150-163
- CHEN, C., and LIU, A. J. (2022) Understanding partnerships in teacher and student feedback literacy: Shared responsibility. Innovations in Education and Teaching International, 61(1): 31-44
- DAWSON, P., YAN, Z., LIPNEVICH, A., TAI, J., BOUD, D. *et al.* (2024) Measuring what learners do in feedback: The feedback literacy behaviour scale. Assessment and Evaluation in Higher Education, 49(3): 348-362
- 藤原康宏, 大西仁, 加藤浩 (2007) 公平な相互評価のための評価支援システムの開発と評価：学習成果物を相互評価する場合に評価者の選択で生じる「お互い様効果」. 日本教育工学会論文誌, 31(2): 125–134
- HERON, M., DONAGHUE, H., and BALLOO, K. (2023) Observational feedback literacy: Designing post observation feedback for learning. Teaching in Higher Education, 1-14, DOI: 10.1080/13562517.2023.2191786
- 岩田貴帆 (2020) 協議ワークを取り入れたピアレビューによる学生の自己評価力向上の効果検証. 大学教育学会誌, 42(1): 115–124
- 岩田貴帆 (2023) 自己評価に基づく自律的なパフォーマンス改善を促す教授法の開発：学生主体の評価活動を取り入れた授業実践を通して. (京都大学大学院教育学研究科博士論文)

参考文献(3/5)

- 岩田貴帆, 瀬崎颯斗, 時任隼平 (2024) 学生のフィードバック・リテラシーを高める学習活動の実践とその効果の探索的検討. 日本教育工学会2024年秋季全国大会(第45回大会)講演論文集, 355-356
- 岩田貴帆, 田口真奈 (2023) パフォーマンスの典型事例とルーブリックを教材とする評価練習の学習効果. 日本教育工学会論文誌, 47(1): 91–103
- 木村武司, 錦織宏 (2023) フィードバック 定義から近年の議論まで. 医学教育, 54(3): 255–265
- 小園由味恵, 眞崎直子, 村田由香, 山村美枝, 竹倉晶子 ほか (2014) 卒業前OSCEフィードバック時の評価者による学生への配慮. 日本赤十字広島看護大学紀要, 14: 47–54
- LEE, I., KARACA, M., and INAN, S. (2023) The development and validation of a scale on L2 writing teacher feedback literacy. Assessing Writing, 57: 100743
- LITTLE, T., DAWSON, P., BOUD, D., and TAI, J. (2024) Can students' feedback literacy be improved? A scoping review of interventions. Assessment and Evaluation in Higher Education, 49(1): 39–52
- MOLLOY, E., BOUD, D., and HENDERSON, M. (2020) Developing a learning-centred framework for feedback literacy. Assessment and Evaluation in Higher Education, 45(4): 527–540

参考文献(4/5)

- 長沼祥太郎, 杉山芳生, 澁川幸加, 浅川裕子, 松下佳代 (2019) パフォーマンス評価における学生の自己評価・相互評価は妥当な評価に近づきうるか：市民的オンライン推論能力を素材として. 京都大学高等教育研究, 25: 13–24
- NASH, R. A., and WINSTONE, N. E. (2017) Responsibility-sharing in the giving and receiving of assessment feedback. Frontiers in Psychology, 8: 1519
- NIEMINEN, J. H., and CARLESS, D. (2023) Feedback literacy: A critical review of an emerging concept. Higher Education, 85: 1381–1400
- PITT, E., and CARLESS, D. (2022) Signature feedback practices in the creative arts: Integrating feedback within the curriculum. Assessment and Evaluation in Higher Education, 47(6): 817–829
- PITT, E., and WINSTONE, N. (2023) Enabling and valuing feedback literacies. Assessment and Evaluation in Higher Education, 48(2): 149–157
- 立命館大学教学部教務課 (2021) 学びと成長レポート, 第2特別号
- 立命館大学教育・学修支援センター (2021) 2021 年度春学期授業アンケートの分析結果について. ITL NEWS, No.53
- 瀬崎颯斗, 渡邊智也, 小野塚若菜 (2023) フィードバック・リテラシーに関する研究動向. 日本教育工学会研究報告集, 2023(3): 152-159

参考文献(5/5)

- 沙華哲, 杉浦真由美, 重田勝介 (2024) 教員のフィードバックリテラシーに関する研究の動向. 日本教育工学会2024年秋季全国大会(第45回大会)講演論文集, 55-56
- 杉浦真由美, 石川奈保子, 阿部真由美 (2024a) フィードバック・リテラシーがライティング授業におけるピアレスポンスに及ぼす影響. 日本教育工学会2024年春季全国大会(第44回大会)講演論文集, 547-548
- 杉浦真由美, 岩田貴帆, 近藤孝樹, 沙華哲, 遠海友紀 ほか (2024b) 学習者中心の評価に関する研究動向と教育工学的な学習評価の枠組みの構築に向けた議論. 日本教育工学会2024年春季全国大会(第44回大会)講演論文集, 5-6
- WANG, Y., DERAKHSHAN, A., PAN, Z., and GHIASVAND, F. (2023) Chinese EFL teachers' writing assessment feedback literacy: A scale development and validation study. Assessing Writing, 56: 100726
- 渡邊智也, 野澤雄樹, 瀬崎颯斗, 小野塚若菜, 楠見孝 (2024) 日本語版フィードバック・リテラシー行動尺度の開発の試み. 日本教育心理学会第66回総会発表論文集, 338
- WISNIEWSKI, B., ZIERER, K., and HATTIE, J. (2020) The power of feedback revisited: A meta-analysis of educational feedback research. Frontiers in psychology, 10: 3087
- WU, P., YU, S., and LUO, Y. (2023) The development of teacher feedback literacy in situ: EFL writing teachers' endeavor to human-computer-AWE integral feedback innovation. Assessing Writing, 57: 100739